

2017/2/22

## (日々雑感 29)



お節介は良くないことだ。

一般的によくそう言われます。ぼくも、かねてよりそう教えられました。

出しゃばってはいけない。人様のことに余計な口を出さない方がいい。ご迷惑かもしれないから。そっとしておいてあげるのも優しさだよ。

とか。

確かに、そう言われて「なるほど」と思いました。

しかし、これはあくまでも平時の場合に於いて正しいのだと思います。

緊急時に於いては、むしろ積極的に「お節介」をしないといけないのではないかと只今、現在は認識を変えております。

緊急時に於いては、むしろお節介は有り難いのです。

人と人がお互い遠慮し合って立っていると、お互いをそれぞれの中心として描かれる円と円の影響範囲の間に円弧の重なり合わない隙間、つまりエアポケットが出来ます。このエアポケットは、お互いどちらかが動かない限り解消されません。そうして、解消されない間に、その隙間に、極めて重要な何かが誰の手にもすくい上げられないまま、目の前、すーっと落ちてしまうのです。

手遅れの瞬間です。

後には、掴む手もないまま空を切って、下方へともんどり打って落ちていく悲鳴の残尾だけが虚しく残る。

聞いてしまった者にも辛い。

それを避けるには、どちらか一方が、円が重なり合うように、つまり伝達や連携が出来るように動かなくてはなりません。

それが、緊急時には誠に有り難たく感じる「お節介」の本姿なのだ痛感いたしました。

日頃「大人の振るまい」の弊社のパートナーさんが、日頃の「大人の振るまい」を捨てて「お節介」を焼いてくださった。(自社の人間に普通は使わない丁寧語ですが)

この一件は、肝に銘じておきたいと思います。今後緊急時には、自分も積極的に「お節介」を人にして差し上げるつもりでおります。